

奈良・人と自然の会



人口爆発と少子化 I

川井 秀夫

今、世界の人口が増え続けている。05年の統計では65億人、50年には93億人と、100億人の時代がそこまでやって来ている。1950年から毎年8000万人増えている勘定であり、これを人口爆発と呼んでいる。食糧問題、水資源の不足、エネルギー問題、貧困に悩む発展途上国等々。空恐ろしい人類社会の課題が現実味を帯びつつある。

環境問題は多岐に亘るが、この問題だけは歯止めをかける有効手段がない。人間には他の生物と違い天敵が存在せず自然淘汰がない。不自然な要因では、戦争・内戦・疫病・自殺・事故・飢餓・疾病による淘汰が考えられるが、決定的要因にはなり得ないからである。

アメリカを除く先進国は少子化を憂い、途上国は人口増、最貧国は飢餓・疫病・エイズ等に悩み、12億人の栄養不良、その内8億人が飢餓状態と言う「分配」の問題が生じている。

ここで世界の人口動向を見てみよう。（単位：億人）

1950年		2000年		2050年	
1 中国	5.54	中国	12.57	インド	15:31
2 インド	3.57	インド	10.16	中国	13:95
3 米国	1.57	米国	2.85	米国	4:08
4 ロシア	1.02	インドネシア	2.11	パキスタン	3:48
5 日本	0.83	ブラジル	1.71	インドネシア	2:93
6 インドネシア	0.79	ロシア	1.45	ナイジェリア	2:58
7 ドイツ	0.68	パキスタン	1.42	バングラデシュ	2:54
8 ブラジル	0.53	バングラデシュ	1.37	ブラジル	2:33
9 英国	0.49	日本	1.27	エチオピア	1:70
10 イタリア	0.47	ナイジェリア	1.14	コンゴ	1:51
				15 日本	1:09

この図表に見られる様に、途上国の台頭が顕著であり、日本を始めアメリカを除く先進国はベスト10から消えている。

人口の低下は過去のスペイン、イギリスの歴史的事実から国勢の衰退は避けられない。日本はどうなるのか、少子化の現実には次章で述べるとして、先ず食糧危機を前提とした政策転換が必要ではないか。自給率を上げる農業・漁業・酪農の活性化が不可欠となる。

早晚、新しい「農」の時代がやって来る。また人口減少の時代には文化・芸術が栄え、文化・芸術大国が生まれる予感がする。

また国際的には、弱小国に対する国際支援も不可欠であり、忘れてはならない問題と考える。日本人よ、豊かさに溺れるなかれ、大変な時代がやって来る。

次回は日本の少子化にスポットをあてます。

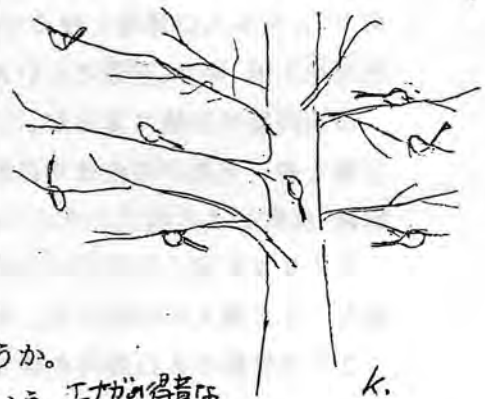
鳥、酉、とり、12月 エナガ

小さな体に長いしっぽから「柄長」と名付けられました。冬になると他のカラ類たちと一つの群になり移動しているのをよく見ます。その一群のリーダーがこのエナガです。チチー ツー ツーや時々 ジュリ ジュリと可愛い話声が近づいてきたら、双眼鏡に入れようなどと思わずに立ち止まって暫くその声や動きを眺めていて下さい。つぶらな瞳と小さな嘴が見えたらラッキー「可愛いーっ」という声を確認してかどうか、エナガがチチーと慌ただしく去る頃ジュウカ、ヤガラ、メジロたちが後からやって来て、最後にカラがのんびりキーンと締め括りをしたらこのご一行はおしまいです。ネグラの木の上でおしあいへしあい（目白押し）する姿は本当に可愛いですよ、と、かくいう私も映像でしか見たことはありません。早春にいち早く子育てのために少しずつ群れから出ていきます。

その子育てにヘルパーがつくことでもよく知られ仲の良い鳥ですが、群れ同士が蜂合った時は代表のオスが対決します。その観察記録を読んでいると、昔見た西部劇の映像が蘇るほど手に汗握る激しいものでした。エナガの巣はクモの糸やコケなどでちょっと目には解らないほどの保護色で作られ、丸い巣の中で長い時間抱卵した後のメスの尾は少し反り返って変です。せっかくのチャームポイントが元に戻るのはいつ頃でしょうか。

*以前読んで感動した、中村登流著『森のひびき』という名著をお勧めします。

小田 久美子



エナガの得意な
クロバット採餌

k.



エナガ（実物大）

カットは「聴いて楽しむ野鳥100声」参照＜編集＞

大寺 道代

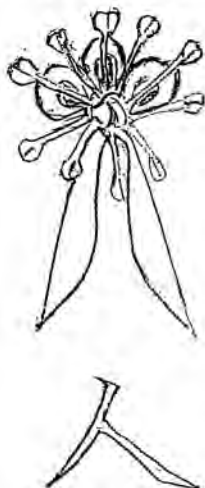
近鉄赤目口駅から10分黄金色の稲穂の残る田園を走り滝の入り口へ。天高く青空には白い月が残っている。

日本サンショウウオセンターを出発し、清流に沿った滝をめぐるコースは冷たい空気に身の引き締まるような清々しさ。水を含んだ苔や草木。川底まで清んだ水に小さな魚が泳ぐ深い淵。10時を過ぎているのにうす暗い。自然の岩石が作った名瀑には夫々名前がつけられ、その名の通り、個性豊かな風情が目を楽しませてくれる。行者の滝にはじまり、霊蛇、不動、乙女、大日、千手、布曳、縋藤、陰陽、姉妹、柿狸、筭、雨降、骸骨、斜、荷担、夫婦、雛段、琴、琵琶、岩窟まで続く。

遠くに二度雌を呼ぶ鹿の声を聞く。まだ黄色くなり始めたばかりの木々の間から洩れる光を浴びて登って行くと、流れの水際に沿ってダイモンジソウの白い花が咲き乱れている。布曳の滝近くにはジンジソウが咲いていると聞き、二つの花のちがいをしっかりと観察する。百畳岩にある茶店で昼休み。餌付けされた二匹のオオサンショウウオが、水中の岩の中から可愛らしい顔を見せてくれる。モモちゃんとコモモちゃんと名前がついていた。昼食の後、三々五々、上流の名瀑を見物に出かける。琵琶の滝の優雅な景色を見て引き返し、もと来たコースを下りへと入る。紅葉は11月中旬からとの事で、少し時期が早かったようだ。けれど千手の滝手前八畳岩あたりの木々にからんでいたハンショウヅルのツルには、花が終わって種になろうとする光った白い糸がかざぐるまの様に無数についていた。これから冬にかけて白い綿毛のようになるらしい。また柱状節理の岸壁にはびっしりとイワタバコが、湿った土の上にはキッコウハグマの小さな白い花が咲き、シラネセンキュウ、サラシナショウマも所々に見られ、季節毎にはもっといろいろな植物が見られるのでは。今回は樹の観察は出来なかったが、思いのほか植生の豊かなところで、もう一度訪れてみたいコースでした。

13日、27日とご協力下さった弓場さん、西谷さん有難うございました。

ジンジソウ



ダイモンジソウ



【行事報告】実施日・参加者<計12名>

<担当>大寺

<下見>10月13日(木):弓場、西谷、吉村、大寺

<本番>10月27日(木):弓場、西谷、川井、勝田、小森、西、柳田、野田、家入
福谷、大寺

11月例会 当尾の里（紅葉と名刹を訪ねて）

豊田 正生

11月12日土曜日、どんよりした天気の中午後からは良くなるとの天気予報に期待し男性10名女性2名合計12名で出発。

近鉄奈良駅から浄瑠璃寺口バス停で下車、早速、今日のリーダー大石さん・斎藤さんによりラジオ体操第一で準備運動をして浄瑠璃寺へ向けて歩きはじめる。電線にキジバトが止まっている、遠くに低い山々が連なり大根畑の緑・稲刈りあとの彦ばえなど田畑が見渡すかぎりひろがりその中に家がポツンポツンとなんともどかな風景。街なかの人々には感激ひとしおと思う。しばらく歩くと右側の石垣にナンテンの珍しい群落がつづく、ナンテンといえはよく手水鉢のそばに植えられていたのを思い出す。遠くの枝先に尾をふり高鳴きしているモズを見る。舗装道路を歩き、やがて対向の山肌にある大門仏谷阿弥陀磨崖仏をこちらの拝所から遥拝。初めて出会う磨崖仏に感動する。首のくびれが深くきれてみえるため首切地蔵といわれる石仏までバス停から45分ほどで着く。途中で名残のツリガネニンジン、道路脇の溝の中に穂が豊かな1本の稲（ドロヒカリ）、花を横から見たら狐の顔？のキツネノマゴ、おいしいフユイチゴを味見しながら、ふと石垣を見ると4本のたてじまがはつきりしたシマヘビがにょろにょろと顔を出す、鷹の妙薬であるオトギリソウの仲間や。ソヨゴの真っ赤な実がつけて行く道を楽しませてくれる、三叉路に出たところで一人のメンバーに出会う、単車で来られたようです。また無人店があちこちにありフォックスフェイスをたくさん並べて店番をしているおばあさん。なた豆がぶら下がっているのが珍しく、わざわざ鹿児島までなた豆を見に行つたことを思い出す。11時20分鎌倉中期に創られた藪の中の地蔵三尊（竹藪の中の岩に刻まれた阿弥陀如来像・地蔵菩薩像・十一面観音菩薩像）に着く。あたご灯籠を右にまがり唐臼の壺磨崖仏二尊を左にとると小川にかかった石橋が、一枚の岩でできている、何トンとあるようだ。ソヨゴの赤い実があざやかに目にはいる、その中にリンゴ色の実のようなものがある。聞いてみるとテイカカズラミサキフシクレという虫こぶでテイカカズラミタマハエが実に寄生して二股の実を合体させてリンゴ色で小さいサクランボを作るそうだ。勿論2本下がったさや状の実がある。急な坂道を避けて遠回りになるが平坦な道を取り、当尾の里のスター級の石仏で鎌倉後期の作といわれ1300年も笑みをたたえている笑い仏を拝み、生駒山の眺望がよい細道を過ぎデザインのGoodな三体地蔵を通して、12時30分に岩船寺前に到着。天気は朝から徐々に回復しこのころは陽光がさして心地よい昼食を売店横の空き地に三三五五広げました。

13時集合、ここで路傍の神仏・道祖神・野仏見分け表・石碑の呼び名の資料説明がある。いつも本会では良い資料と丁寧な説明に感謝する。岩船寺に行く、本堂で和尚さんの説明を聞く、普賢菩薩騎象像の象が鼻で持っていた棒を何者かが持ち去つたらしいので、写真が展示され本物は見る事が出来なかった。花の寺として有名だが、紅葉も今年は未だ早く三重の塔の赤色が鮮やかであった。四隅の垂木を支える天邪鬼の写真を撮る。帰りは急な坂道を降りて、途中きばったお顔でユーモアの風情たよう不動明王石仏を拝み、どんどん元来た道を帰る、三叉路を直進し浄瑠璃寺へ、この池をはさんで本堂と三重塔が向かい合う浄土式庭園で、平安貴族が極楽浄土を夢見て通つたという。この塔の前のもみじが1本紅葉し見事でとても美しかった。丁度夕日が池と塔にあたり、カメラマンが熱心に撮っていた。

浄瑠璃寺からは、来た道を帰途につく、バス停まで恒例のミーティング、ここで私に作文が当てられた。朝12番目に名前を書いたときからの予想が当たりお粗末さまでした。

その他観察した植物：アマドコロ・キンシバイの花、実・シロダモの赤い実・ヤクシソウ・ベニバナボロギク・ヤブコウジヤブムラサキ・コマユミ・ヤマコウバシの黒い実・ウメモドキ

11月例会「当尾の里、紅葉と名刹を訪ねて」

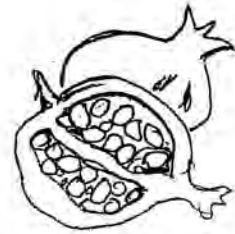
担当：斎藤和子、大石門三

日時：11月12日（土）終日曇天 気温17度

コース：近鉄奈良＝バス＝浄瑠璃寺口～石仏群～昼食～岩船寺～浄瑠璃寺～浄瑠璃寺口＝バス＝近鉄奈良 解散：16時 行程：約6km

参加者：弓場（厚次、京子）、寺田、林、砂山、山田、松浦、吉村、勝田（均、緑）、宮澤、豊島、小田、小森、徳久、豊田、西、斎藤、大石（門三、公子） 20名

近鉄奈良の駅頭、紅葉情報では当尾の里は満開の由、しかし少々肌寒き一日であったが、長閑な田園風景と、石仏群、名刹の二寺をめぐり秋の一日を楽しんだ。



第7回 近畿自然歩道・まほろばの路

—葛城山麓古代人の祈りが聞こえる路—

志水 明子

気温16℃。風もなく穏やかに晴れたハイキング日和の一日でした。御所駅からバスで13分。猿目橋バス停で下車。ここが出発点です。今回のコースは高低差が少なかったの
で、路の左右にある草・木を十分に観察しながら歓談して歩く事が出来ました。

笛吹神社までの路には、実の中味がアンモナイトの形に似るアオツヅラフジや、2年目に実が赤くなる為、花と実を同時に見る事が出来るシロダモ等を観察し、視界の開ける場所では、大和平野を眺めながら進みました。

笛吹神社というのは旧忍海郡14ヶ村の総鎮守社です。県天然記念物に指定されているイチイガシが群生しています。木の鼓動が聞こえてきそうな静かな神社でした。

昼食は葛城山麓公園です。ここは小さな子供連れが楽しめる遊具があり、芝生広場はミニ若草山といった風でしょうか。今年は暖かいせいか紅葉は少し先、という感じでしたが、一部美しく色づいた木もあり、オオデマリ・ボケ・ユキヤナギ・チンゲン菜の花が咲いていました。置恩寺・二塚古墳に向かって歩く路、何度も畝傍・耳成・香久山の大和三山を眼下に見渡せる大パノラマに出会い、その度に わあー素敵！ の歓声です。気持ちはすっかり古代人です。造園業者が栽培しているらしい桜の高木が、10本単位ぐらいに2〜3ヶ所あり満開でした。ソメイヨシノがすぐ側で紅葉していて、なんとも不思議で美しい風景です。二塚古墳は現在の紀泉伊勢南街道ルートと呼ばれる内にあり、三つの入り口を観察する事が出来ます。他にも多くの古墳に出会えるルートです。

最後のおまけという事で、磐城駅までの道にある現徳寺の松柿を観に行きました。文明18年蓮如上人がお立ち寄りになった時、松の木を台木にして柿の小枝を接いだものといわれ、根元から2m位までが松でその上が柿木という珍しい樹齢500年の保護樹木です。沢山実っていた柿は、富有柿を少し縦長にした形で一見渋柿ですが、甘柿です。味は確認済みです。ハイ。今回目を楽しませてくれる植物が沢山あり、のどかな風景の路が多かったので疲れ知らずの10kmでした。それにしても皆さんの知識の豊富さに感心しました。お世話になりました。

【行事報告】 第七回近畿自然歩道・まほろばの路（古代人の祈りが聞こえる路）

日 時 11月15日（火） 晴れ 約10キロ

コース 御所(10:00)バス⇒猿目橋(10:30)⇒笛吹神社(ハカシ。イチイガシの自然林)⇒山麓公園(昼食)⇒知恩寺⇒二塚古墳(アモジ♂薔)⇒弥宮の丘公園⇒兵家(一応解散)⇒現徳寺(松柿:松に柿を継いだ?)⇒岩城駅(16:10)

参加者 吉村・勝田(均・緑)・弓場(厚・京)・林・志水・砂山・小山・福谷・川井・篠原・小田(担当)計13名

実(赤、黒、青) タンキマ ナミキ アリトウ カナメチ サキ ヒサキ カスウリ ウメトキ カマツ
ノイバラ アオツヅラフジ アキ アサケザンショウ ナミスキ サンシュモ ムクゴ イチイガシ
ゴンズイ クサギ シロダモ ムクノキ コブシ センリョウ マンリョウ ヤブコウジ イベリ
アマガハシナミスキ アモジ 秋本番、紅葉も進み沢山の实を見ました。

[I]「黒髪山自然塾」支援活動

1) 9月25日(日) <午前>バームクーヘン作り <午後>竹とんぼ作り

- ☆ 入塾者：子供84名・父兄約30名 運営：運営協議会4名・市青少年指導協議会5名・人と自然の会6名（川勝、倉田、小峯、坂口、樋口、本郷）
- ☆ 今回は入塾の子供が多数になったことから、急遽当会に協力要請があったもので、活動は午後の竹工作が主体である。従って工作も男性主体の構成で臨んだが、結果的には当を得たと思っている。
- ☆ 材料は青少年指導協議会で準備してあったが、年少者には多少無理を伴う大きさを幼稚園児には、少し削いでから加工してやったが、成功だった。
- ☆ 子供8名単位で班を編成し、各班にスタッフが指導に当たり成功に導いて行く。
- ☆ 私が受け持った班では幼稚園児が4名で、この子達には材料を小さく削って当方で最初から作ってやったが「マイトンボ」として喜んでた。小学生には平面の削りを主に優先させ、平衡仕上げのみを面倒見る形で進行していった。
- ☆ 「バームクーヘン」の試食が最後に廻ったが、15時30分には嬉々とした子供達の帰宅姿が見られた。ケガ・事故一人もなく盛況裡に終わった。

2) 10月23日(日) <午前>ネイチャーゲーム <午後>蔓・葉・実でリース作り

- ☆ 入塾者：子供60名・父兄12名。専任講師：1名。運営：運営協議会7名・奈良ネイチャーゲーム・まほろば協会4名・当会6名（岩田、倉田、齋藤、坂口、樋口、吉村）
- ☆ 今回は生駒棚田クラブより材料として、「ドイツ大麦」の寄贈を戴いた。リースにすると、えも言えぬ雰囲気をもたらしてくれた。
- ☆ 自宅から月桂樹・境さんが終の葉を持って行ったが、子供達は良い飾りをしてくれた。黒髪山C/F内にも、椿の実やアケビ等の材料が見つかった。
- ☆ 今回の特色は蔓に木の実を接着の際、従来なら「ツマ楊枝」を使って接着したが、今回グルーガンで接着したので、木の実・蔓に穴を開ける必要がなく、能率良くリース作りが捗ったことだろう。 ☆ リース作りが早く済んだので、子供が拾ってきたドングリや持参のマテバシイで「どんぐりごま」を作らせる。
- ☆ 今年の黒髪山自然塾は、昨年に比し例月とも出足良く募集予定員数の2倍近くになっている。「ありがとう！さようなら！」の明るい子供の笑顔が印象深い一日だった。

[II]天理市ウオーキングフェスタ<自然工作教室>

日時・場所：11月12日(土) 10:00~15:00 天理市杣之内町西乗鞍山古墳公園

講師：大阪シニア自然大学7名・人と自然の会3名（樋口他2名）（*樋口 善雄*）（*田中 芳子*）

内容：大阪シニア自然大学との連携行事。奈良は「バード・コール」を教材とした。二張りのテントに全員待機。10時30分頃より徐々にウオーカーが訪れて来た。12時前より13時30分頃迄ブースを訪れる人出は最高に達し、工具は奪い合いの始末。14時になって一段落したが、超多忙な一日だった。短時間に集中する場合の対応を如何にするか？ノーハウが少しずつ増えて来る。が、何よりもメンバーが少なくても如何ともし難い。今後の皆様の後援と協力をお願いしたい。工作材料は、220名分を持参していたが、全てを消化して終わった。隣の「大阪シニア」のブースを振り返る余裕も無かったのである。後始末をしている頃、野草料理の出前講師陣が陣中見舞いに立ち寄ってくれたが、来場者は殆ど次の会場（イモ堀）へ向かった後だった。心地良い達成感を味わいつつ帰路に就いた。



地域情報



★ 11月7日イソヒヨドリが竜田川近くの工場の屋根にいました。胸がオレンジで羽が青く斑点がありオスでした。8日にもそのすぐ近くの電線にいました。20日にいなくなったと思っていたのが、また工場の屋根にいました。 [勝田]

★ 11月11日、奈良国立博物館西側の道路（登大路）沿いの松並木にムササビが観察されました。雨が降っていて暗い中、突然目の前を横切り、三度松の木を飛び移って暗闇の中に消えました。ちょうど日没10分後（17:25）でした。 [大寺]

★ 11月初め、庭のモチノキの樹上でカラスがけたたましく大鳴きを繰り返した。何事？と覗くと2メートル程下の枝にカラスより一回り小さいが大型の鳥が潜んでいた。双眼鏡を当てると黄色く縁取られた鋭い目、鉤型の嘴、はっきりした眉斑に腹部の横縞が浮かび上がる。【ハイタカ！】独断専行で同定。急ぎ300ミリを装着してシャッターを2〜3枚切った直後に低く飛び去った。カラスの子供にチョッカイでも出したのか、親に追われて緊急避難したものらしい。

酉年の“取り”に相応しい珍客は我が家の吉兆となるか？それとも・・・？

東大阪 [小森]



<小森氏撮影>



【奈良忍辱山森林整備作業】

〈場 所〉 奈良忍辱山国有林 (淀川、木津川、白砂川の源流域)
集合場所 (忍辱山円成寺駐車場) より徒歩10分 11月号地図参照

〈集合場所〉 国道369号線
忍辱山円成寺駐車場 (バス停 円成寺口と忍辱山円成寺の間)

〈日 時〉 12月 4日 (日) 9時20分 第39回
12月13日 (火) 10時20分 第40回 午後3時頃
1月11日 (水) 10時20分 第41回 〈終了予定〉
1月22日 (日) 9時20分 第42回

【天 候】 午前6時 奈良県北西部に警報が発表されている場合は中止いたします

〈交 通〉 奈良交通バス 平日 [月ヶ瀬温泉行き] 土、日 [柳生行き]
JR奈良駅⑥番乗り場 近鉄奈良駅④番乗り場 忍辱山円成寺
日曜 8:26 8:29 9:02
平日 9:30 9:33 10:06
臨時バス お問い合わせ 奈良交通 ☎0742(20)3100

〈持ち物〉 ヘルメット (防災用)、手袋、スパッツ、鋸、防護眼鏡、弁当、飲み物
ヘルメット、防護眼鏡、鋸等の用具は当会にて多少は用意しております
《未経験者には基本より指導いたしますのでお気軽に。森林を楽しみましょう。》

〈連絡先〉 弓場厚次
阿部和生
寺田正博

【作業実施報告】

9月27日 (水) 東海自然歩道沿い作業地最終日

〈参加者〉 川井、中畑、大石、明石、樋口、吉村さつき、福谷れい子、弓場、
阿部、寺田。10名。

10月10日 (祝) 曇のち雨

〈参加者〉 小森、中畑、明石、下村悦子、弓場、阿部、寺田。7名。

『本日より新しい森林の作業に入った。』

作業林全体の境界を全員にて周遊確認。

間伐樹のテープ巻きをしたところで雨が降りだし作業を終了。

10月25日 (火) 晴。

〈参加者〉 中畑、大石、竹本雅昭 (初)、阿部、弓場、寺田。6名。

作業場の基地の整備を行なう。

間伐作業も捗る。

11月2日 (水) 快晴 ☀

〈参加者〉 樋口、中畑、明石、下村悦子、弓場。5名。

快晴のもと楽しく作業を行なう。

《皆様のご参加をお待ち致します。楽しく、ゆっくりとした作業です。

植物観察も楽しくして頂けます。》

【12月度例会】平城旧跡野鳥観察会・忘年会のご案内

日 時 12月12日(月) 10時
集合場所 西大寺北口改札 (鶴橋から約25分)
コ ー ス 水上池——ウツナベ古墳——コナベ古墳——磐之媛陵——平城旧跡
準 備 弁当、飲み物、双眼鏡、図鑑など(★防寒対策)
昨年はおシドリの当り年でここも最大 240 羽、オオタカと水鳥がのんびり
(これは誰かが犠牲になった後か?) とタヌキが2匹、御伽斬チックな不思議な光景に出会えました。
忘 年 会 探鳥会の後、西大寺の味楽座にて忘年会の予定です、ふるってご参加下さい。
担当 小田 久美子

第8回 近畿自然歩道「まほろば」の路

当麻の里、白鳳ロマンスのみちを訪ねて

二上山の東側山裾を、兵家集落、最初の官道・竹内街道の名前のもとになった竹内集落、国宝、重文等を有する當麻寺、ボタンで有名な石光寺などの名所、旧跡を訪ねるコースです。

<日 時> 12月15日(木) 9:30 小雨決行
<集 合> 近鉄南大阪線 磐城駅改札口前
<交 通> 西大寺発 急行 8:20→橿原神宮前発 準急 9:09→磐城駅着 9:26
阿倍野橋発 準急 8:34→古市(乗換) 発 9:00→磐城駅着 9:16
<行 程> 磐城駅→兵家→竹内→當麻寺→石光寺→二上山駅
<持 物> 弁当、飲み物、観察用具、雨具
<担 当> 小山 直方

〈1月度の予定〉

* 詳細は機関紙第48号<1月号>でお知らせします。

第9回近畿自然歩道・まほろばの路

[コース名] 二上山を越え、鈍鶴峰を訪ねる路
[日 程] 1月16日(月)
[担 当] 弓場 厚次

一月例会 奈良公園自然観察会と新春講演会

日 時 1月21日(土) 9:30
場 所 近鉄奈良駅 地上階 行基菩薩噴水前 集合
行 程 9:30~12時頃 気鋭の横田先生と奈良公園自然観察会
講演会 PM1時30分より
会 場 国際奈良学セミナーハウス(奈良市登大路町63、近鉄奈良駅下車徒歩東へ10分)
講 師 龍谷大学 農学博士 横田岳人先生(生態環境マネジメント分野)

協力活動 [いこま棚田クラブ] 12月、18年1月、活動日 ご案内

活動日…12/4(日)、12/12(月)、12/18(日)、12/26(月)

1/9(月)、1/15(日) 大トンド祭り、1/23(月)、1/29(日)

臨時活動日 1/14(土) トンド祭り準備。

“棚田は、あなたを待っています！”

集合場所： 近鉄生駒駅下車 南口側ケーブル駅西隣 セブンイレブン前

集合時間： 9時 現地までタクシー他 分乗で移動

持ち物： 弁当、飲み物 作業スタイル

事務局： 大寺道代

ホームページ：

11月度幹事会議事録

日時：11月4日(金) 場所：奈良県女性センター 司会：境 書記：三木

【報告事項】

(1) 会員動向：101名 会計報告：210、592円

(2) 10月度例会：10/27「赤目四十八滝の紅葉」参加者11名(下見4名)

(3) まほろばの路：「葛城古道を行く」参加者15名(下見6名)

(4) 森林整備作業：新地区での作業始まる。

「森林整備・森林体験」の催し、詳細は機関紙11月号

(5) 黒髪山C/F自然塾：10/23、当会から6名。

(6) いこま棚田クラブ：10月5回、さつまいも、枝豆収穫、草刈など。

(7) その他：11/12天理市ウォーキングフェスタに工作3名

【承認事項】

(1) キャッチフレーズ決定：「わたしたちは、大和の自然を愛します」

(2) 拡声器購入：シニア自然大学所有物など調査。

【討議事項】

(1) 新春講演会：横田岳人(竜谷大講師) 1/21、22、28、29で打診。

(2) 11～1月度定例行事予定の確認

①例会：11/12(土)「当尾の里」、12/12(月)「水上池野鳥観察と忘年会」

②まほろばの路：11/15(火)「葛城山麓」、12/15(木)「当麻の里」

1/16(月)「二上山、鈍鶴峰」

③奈良忍辱山森林整備作業

11/20(日)、12/4(日)、12/13(火)

編集担当：勝田 均

Tel&Fa

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫